

病害虫発生予察情報(1月予報)

令和6年12月24日

静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (1月の県平均平年値)	予報の根拠
トマト	葉かび病・ すすかび病	発生量：少 (発病株率 9.7%)	12月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
	灰色かび病	発生量：少 (発病株率 3.8%)	12月中旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
	黄化葉巻病	黄化葉巻病発生量：少 (発病株率 2.2%)	12月中旬発生量：少 (－) コナジラミ類発生量：やや少 (－) 気象予報：気温：低い (－)
	コナジラミ類	発生量：やや少 (寄生株率 11.4%)	11月中旬発生量：やや少 (－) 防除員からの報告：やや多 (+) 気象予報：気温：低い (－)
だいこん	白さび病	発生量：少 (発病株率 7.5%)	12月上旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (+) 降水量：少ない (－)
	モザイク病 (アブラムシ類)	モザイク病発生量：並 (発病株率 2.1%) アブラムシ類発生量：多 (寄生株率 6.4%)	12月上旬発生量 モザイク病：少 (－) アブラムシ類：多 (+) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (+)
	コナガ	発生量：並 (寄生株率 0.5%)	12月上旬発生量：やや多 (+) フェロモントラップ誘殺数：少～並 (－～±) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (±)
	ナモグリバエ	発生量：少 (寄生株率：15.6%)	12月上旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (±)
キャベツ	菌核病	発生量：少 (1月平年値なし)	12月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
たまねぎ	灰色腐敗病	発生量：少 (発病株率0%)	12月中旬発生量：並(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
	腐敗病	発生量：やや多 (発病株率 1.2%)	12月中旬発生量：多 (+) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
	ネギアザミウマ	発生量：少 (寄生株率 27.8%)	12月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (+)

作物名	病害虫名	予報 (1月の県平均平年値)	予報の根拠
ねぎ (白ねぎ)	さび病	発生量：少 (1月平年値なし)	12月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
	べと病	発生量：少 (1月平年値なし)	12月中旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
レタス (非結球レタ スを除く)	べと病	発生量：少 (発病株率 1.5%)	12月中旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (＋) 降水量：少ない (－)
	斑点細菌病	発生量：少 (発病株率 2.0%)	12月中旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：低い (＋) 降水量：少ない (－)
いちご	灰色かび病	発生量：少 (発病株率 0.5%)	12月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：低い (－) 降水量：少ない (－)
	うどんこ病	発生量：少 (発病株率 1.1%)	12月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：低い (－)
	炭疽病	発生量：多 (発病株率 1.2%)	12月上中旬発生量：多 (＋) 防除員からの報告：やや多 (＋) 気象予報：気温：低い (－)
	アブラムシ類	発生量：少 (寄生株率 1.6%)	12月上中旬発生量：少 (－) 防除員からの報告：やや多 (＋) 気象予報：気温：低い (－)
	ハダニ類	発生量：並 (寄生株率 14.0%)	12月上中旬発生量：並 (±) ただし、一部ほ場で多 防除員からの報告：やや多～多 (＋) 気象予報：気温：低い (－)
	アザミウマ類	発生量：並 (寄生株率 2.5%)	12月上中旬発生量：並 (±) 防除員からの報告：やや多 (＋) 気象予報：気温：低い (－)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年（静岡県過去の10年間）との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、平年（静岡県過去の10年間）との比較で、「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況（調査時期と発生量）、気象庁の1ヶ月予報（気温と降水量）を記入しています。その状況が多発要因の場合は（＋）、少発要因の場合は（－）を示し、＋－を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。

農薬情報
はこちら
で検索！



静岡県農薬安全使用指針
・農作物病害虫防除基準

<https://www.s-boujo.jp/>

静岡県病害
虫防除所 HP
が新しくな
りました。



静岡県病害虫防除所 HP

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyo/shigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>

2 予報の根拠と防除対策

【トマト】

<生育の概況>

生育は平年並～やや遅い。

●葉かび病・すすかび病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均発病株率は4.3%（平年12.1%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。ただし、例年12月以降はハウスの密閉による多湿で、発生が増加するため注意する（本病の生育適温は、葉かび病20～25℃、すすかび病27℃程度であり、特に多湿条件下で発生が多くなる）。

防除対策

- ・葉かび病については、葉かび病抵抗性品種（Cf-9）を侵すレース2.9の発生が県内で確認されている。
- ・本県では12月以降は葉かび病の発生が増加する傾向があるため、葉かび病抵抗性品種を栽培しているほ場でも薬剤の予防散布を行い、葉かび病の発生に注意する。
- ・本病は潜伏期間が2週間程度と長く、多発してからでは薬剤の効果が劣るため、発病が認められたら直ちに薬剤を散布する。ただし、耐性菌の発生を防ぐため、散布薬剤をローテーションする。
- ・多湿にならないように換気につとめ、過度のかん水を避ける。
- ・発病葉は感染源となるため速やかに摘み取り、ほ場外に撤去し、適切に処分する。特に多発生ほ場では摘み取り作業を徹底する。

●灰色かび病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発病株率2.8%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。ただし、例年12月以降はハウスの密閉による多湿で、発生が増加するため注意する（本病の生育適温は23℃程度であり、特に多湿条件下で発生が多くなる）。

防除対策

- ・株の繁茂やハウス内湿度の上昇により発生が増加するので、不要な下葉を除去するとともに、日中の換気を早めに行い、施設内の除湿に努める。
- ・予防に重点をおいた薬剤散布を行う。ただし、耐性菌の発生を防ぐため、散布薬剤をローテーションする。
- ・発病した果実や茎葉は伝染源となるため速やかに取り除き、ほ場外に撤去する。
- ・多湿にならないように換気につとめ、過度のかん水を避ける。

●黄化葉巻病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均発病株率は0.3%（平年2.5%）と平年より少なかった。
- ・コナジラミ類は、平均寄生株率は10.0%（平年13.2%）と平年よりやや少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、媒介虫であるタバココナジラミの増殖を助長しない。このため、本病の発生も助長しない。

防除対策

- ・本病はタバココナジラミによって媒介されるため、タバココナジラミの防除を徹底する。防除対策については、コナジラミ類の項を参照すること。
- ・発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、ハウス外の土中に埋めるか、ビニール袋に入れて腐らせる等して適切に処分する。
- ・脇芽や摘果などの残さは放置すると野良生えとなり、媒介虫や本病の伝染源となるので、ほ場付近には放置しない。
- ・多発ほ場においては、耐病性品種の利用を検討する。なお、耐病性品種でも感染し、ウイルス密度が高まると発病するため、タバココナジラミの防除を徹底すること。

●コナジラミ類

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は10.0%（平年13.2%）と平年よりやや少なかった。
- ・病害虫防除員からは、4名中3名から本種の発生が「やや多い」との報告があった。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本種の発生を助長しない。

防除対策

- ・施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置し、侵入を抑制する。
- ・成虫の寄生や黄色粘着板の捕獲数に注意し、発生が確認された場合は薬剤防除を実施する。

【だいこん】

<生育の概況>

生育は平年並～やや遅い。

●白さび病

予報の根拠

- ・12月上旬の巡回調査では、発病は確認されなかった（平年発病株率2.5%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より低い、降水量は平年より少ないため、本病の発生を特には助長しない（本病は多湿を好み、分生子の発芽最適温度は10℃程度である）。

防除対策

- ・発病残さは翌年の伝染源となるため、ほ場に放置しない。
- ・排水を良好にするなどして多湿にならないように努める。

●モザイク病（アブラムシ類）

予報の根拠

- ・12月上旬の巡回調査では、平均発病株率0.4%（平年1.7%）と平年より少なかった。
- ・本病の媒介虫であるアブラムシ類は、平均寄生株率24.9%（平年3.8%）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、降水量は平年より少ないが、気温は平年より低いため、本病を媒介するアブラムシ類の増殖を助長しないが、アブラムシ類の平均寄生株率が平年より高いため、本病の発生が助長される。

防除対策

- ・雨が降らない日が続くとアブラムシ類が急増する場合があるので、ほ場内の発生に注意し、確認された場合は薬剤防除を実施する。
- ・被害株も伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。

●コナガ

予報の根拠

- ・12月上旬の巡回調査では、平均寄生株率は1.1%（平年0.7%）と平年よりやや多かった。
- ・11月21日～12月15日までのフェロモントラップによる本種の誘殺数は、浜松市では平年並に推移しており、牧之原市では平年より少なく推移している。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、発生を助長しない。

防除対策

- ・発生が多い場合は、薬剤を葉裏にかかるように散布する。

●ナモグリバエ

予報の根拠

- ・12月上旬の巡回調査では、寄生が確認されなかった（平年寄生株率7.0%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本種の発生を助長しない。

防除対策

- ・上位葉に白点（産卵痕）や絵描き状の食害痕が多数見られる場合は、防除を実施する。

【キャベツ】

<生育の概況>

収穫期に入っていて、生育は平年並～遅れている。

●菌核病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均発病株率0.2%（平年0.4%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・収穫期に入っているほ場では防除の必要はないが、今後収穫予定のほ場では気象情報を確認し、降雨が予想される場合は発生に注意する。
- ・薬剤防除の際は、予防散布や発生初期の散布を徹底する。複数回散布する場合は、系統の異なる剤を選択する。

【たまねぎ】

＜生育の概況＞

生育は平年よりも遅れている。

●灰色腐敗病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発生なし）。
- ・本病は多雨で発生が助長される。1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・春期収穫の作型では、過剰な施肥や肥料の遅効は本病の発生を助長するため、適切な施肥管理に努める。
- ・例年発生が見られるほ場は、鱗茎への感染を予防するため、薬剤による防除を実施する。複数回散布する場合は、系統の異なる薬剤を選択する。
- ・罹病球やくず球は、ほ場付近に放置すると発生源となるため早期に取り除き、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

●腐敗病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均発病株率2.0%（平年0.6%）と平年よりも多かった。
- ・病原細菌の生育適温は20～23℃で、強風雨や多湿な環境により発生が助長される。1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・本病は細菌病であり、強風雨や凍霜害による傷口から侵入するため、強風雨の前後に薬剤散布を行い、予防や感染の拡大防止に努める。
- ・ネギアザミウマの食害も本病の感染を助長するため、発生に注意し、本種の防除を実施する。
- ・発病株は感染源となるため、速やかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- ・防除対策については「[技術情報第4号（たまねぎ 腐敗病）](#)」も参照すること。

●ネギアザミウマ

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は2.2%（平年27.6%）と平年より少なかった。被害を示す被害度は2.6（平年15.7）と平年よりも低かった。
- ・1か月予報では、降水量は平年より少ないものの、気温は平年より低いいため、本種の発生を特には助長しない。

防除対策

- ・例年1月は特に防除の必要はないが、温かい日が続くと増殖を始め、生息密度が高まるので、発生状況に応じて薬剤防除を実施する。

【ねぎ（白ねぎ）】

＜生育の概況＞

収穫は平年よりも遅れている。

●さび病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、平均発病株率0.2%（平年3.4%）と平年より少なかった。
- ・本病は、気温10～22℃の時期に降雨が続くと発生が多くなる。1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・収穫期に入っているほ場では防除の必要はないが、今後収穫予定のほ場では気象情報を確認し、降雨が予想される場合は発生に注意する。
- ・薬剤防除の際は、予防散布や発生初期の散布を徹底する。複数回散布する場合は、系統の異なる剤を選択する。

●べと病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発病株率0.5%）。
- ・本病は、気温15～20℃で降雨が続くと発生が多くなる。1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・収穫期に入っているほ場では防除の必要はないが、今後収穫予定のほ場ではの気象情報を確認し、降雨が予想される場合は発生に注意する。
- ・薬剤防除の際は、予防散布や発生初期の散布を徹底する。

【レタス（非結球レタスを除く）】

＜生育の概況＞

生育は平年より早い傾向。

●べと病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発病株率0.9%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いが、降水量は平年より少ないため、本病の発生を特には助長しない（病原菌の生育適温は10～15℃で、多湿を好む）。
- ・トンネル被覆後に結露するような高湿度になると発生が多くなるので注意する。

防除対策

- ・初発を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。
- ・罹病残さは、ほ場外に適切に処分する。
- ・トンネル被覆後は、過湿にならないよう換気に努める。

●斑点細菌病

予報の根拠

- ・12月中旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年発病株率0.7%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いが、降水量は平年より少ないため、本病の発生を特には助長しない（本病は比較的低温で多湿条件を好むため、トンネル被覆後に結露するような高湿度になると発生が多くなる）。

防除対策

- ・発病は主に結球期以降であるが、結球前に薬剤の予防散布をして葉面の病原細菌密度を下げるのが重要である。
- ・降雨が続くときや初発を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。
- ・トンネル被覆後は、トンネル内が高温多湿にならないよう換気に努める。

<その他の病害虫>

●菌核病

- ・12月中旬の巡回調査では、平均発病株率は0.7%（平年0.3%）と平年よりやや多かった。
- ・発病後の薬剤散布では効果が劣るため、常発地では定植後30～40日で、本葉が8～10枚程度出葉した頃を目安として予防散布を行う。
- ・発病株には菌核が形成されて伝染源となるので、ほ場に放置せず速やかに撤去する。

【いちご】

<生育の概況>

生育は平年より遅れている地域が多い。

●灰色かび病

予報の根拠

- ・12月上中旬の巡回調査では、平均発病株率は0.1%（平年0.3%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より少ないため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・本病は気温が20℃前後、多湿条件下で多発生するため、施設内の多湿、植物体の結露は、本病の発生を著しく助長する。循環扇や暖房機の利用、換気、かん水量の調整等で湿度を管理し、耕種的な対策を行う。
- ・曇雨天が続く場合は、施設内の多湿を避けるために薬液散布でなく、くん煙剤を利用した防除を行う。
- ・株が過繁茂となると発生が助長されるため、下葉や不要な果梗枝の除去を適切に行う。また、発病した果実や茎葉は有力な伝染源となるため速やかに除去し、ほ場外で処分する。
- ・発病前から定期的に予防散布を行う。薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●うどんこ病

予報の根拠

- ・12月上中旬の巡回調査では、平均発病株率は0.5%（平年1.4%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・胞子の発芽適温は20℃前後であり、施設内は本病の発生に好適な環境となるため、発生予防に努める。
- ・多発生すると防除が困難であるため初期発生に注意し、発病が確認されたら速やかに防除を行う。
- ・株が過繁茂となると発生が助長されるため、下葉除去を適切に行う。果実でも頻繁に発生するため、発病果の速やかな除去を徹底する。

●炭疽病

予報の根拠

- ・12月上中旬の巡回調査では、平均発病株率は1.8%（平年1.2%）と平年より多かった。
- ・いちご病害虫防除員6名からの報告によると、本病の発生について4名が「やや多い」と回答した。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・発病株から周囲へと伝染するため、ほ場の見回りを徹底し発病株や、発病が疑われる株の早期発見に努める。発病株は培土ごと取り除き、ビニール袋に入れてほ場外へ持ち出し、殺菌処理後に残さを処分する。
- ・本病原菌は水滴の飛散等によって伝染する。薬剤散布も伝染を助長する可能性があるため、殺虫剤のみの散布、感受性低下の疑われる剤（MBC殺菌剤（FRAC:1）、DMI殺菌剤（FRAC:3）、Qoi殺菌剤（FRAC:11））の散布は避ける。
- ・厳冬期も緩やかに病徴は進展するため、新たな発病に注意する。また、開花、着果により株に負担がかかると萎凋症状が進展する場合がある。
- ・発生状況及び防除対策については、[「技術情報第5号（いちご炭疽病）」](#)も参照する。

●アブラムシ類

予報の根拠

- ・12月上中旬の巡回調査では、平均寄生株率は1.2%（平年2.8%）と平年より少なかった。
- ・いちご病害虫防除員6名からの報告によると、本種の発生について4名が「やや多い」と回答した。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本種の発生を助長しない。

防除対策

- ・冬期は施設内への侵入は少なくなるが、ほ場をよく観察し、初期防除に努める。
- ・天敵製剤を利用しているほ場では、天敵に対して影響の小さい薬剤を選択して防除する。

●ハダニ類

予報の根拠

- ・12月上中旬の巡回調査では、平均寄生株率は19.6%（平年18.6%）と平年並であったが、一部ほ場では多発していた。
- ・いちご病害虫防除員6名からの報告によると、本種の発生について4名が「やや多い」または「多い」と回答した。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本種の発生を助長しない。

防除対策

- ・寄生が認められた場合は、少発生のうちに防除する。
- ・ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいので、天敵や気門封鎖剤を利用する。なお、気門封鎖剤は卵への効果が低く残効性が期待できないため、5日間隔程度で連続散布する。
- ・天敵製剤を利用する場合は、ハダニ類及び天敵の発生状況をよく観察する。ハダニ類の発生が多い場合には、天敵に対して影響の小さい薬剤を選択して防除する。

●アザミウマ類

予報の根拠

- ・12月上中旬の巡回調査では、平均寄生株率は2.7%（平年2.6%）と平年並であった。
- ・いちご病害虫防除員6名からの報告によると、本種の発生について4名が「やや多い」と回答した。
- ・1か月予報では、気温は平年より低いため、本種の発生を助長しない。

防除対策

- ・本虫は花を好んで寄生する。花における発生状況をよく観察し、本虫の寄生が認められた場合は少発生のうちに防除する。また、必要のない花は摘み取る。
- ・施設内外の雑草や花き類は、本虫の発生源となるため除去する。
- ・天敵製剤を利用するほ場では、天敵に対して影響の小さい薬剤を選択して防除する。
- ・発生状況及び防除対策については、[「技術情報第6号（いちご アザミウマ類）」](#)も参照する。

3 季節予報

● 1か月予報 (東海地方 令和6年12月19日 名古屋地方気象台発表)

【予報期間】 12月21日から1月20日

【予想される向こう1か月の天候】

特に注意を要する事項		2週目は、気温がかなり低くなる可能性があり、岐阜県山間部を中心に降雪量がかなり多くなる可能性があります。
向こう1か月	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、低い確率50%です。
	降水量	降水量は、少ない確率50%です。
	日照時間	日照時間は、多い確率50%です。
1週目	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目	気温	2週目は、低い確率60%です。
3～4週目	気温	3～4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

【確率】

期間	要素	低・少	平年並	高・多%
1か月	気温	50	40	10
1か月	降水量	50	30	20
1か月	日照時間	20	30	50
1週目	気温	40	50	10
2週目	気温	60	30	10
3～4週目	気温	40	40	20

【予報の対象期間】

1か月	: 12月21日(土)～1月20日(月)
1週目	: 12月21日(土)～12月27日(金)
2週目	: 12月28日(土)～1月3日(金)
3～4週目	: 1月4日(土)～1月17日(金)

※ 利用上の注意

- ・気温・降水量は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります。(気候的出現率と呼びます)。
- ・晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

お問い合わせは

静岡県病害虫防除所 〒438-0803 磐田市富丘678-1

TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

URL <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>